



2017年8月号

ウトナイ湖通信

No.159

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

H29年度「野生動物救護講座～中級～」を開催しました！

内容を見直し、大幅にリニューアルした今年度の野生動物救護講座。前回よりも専門性を高めた座学を増やし、また、より実践的な技術を学ぶ「中級」を開催しました。7月15日、蒸し暑い天気の中、苫小牧をはじめ札幌、旭川、留萌など道内各地から25名の参加がありました。

講師は当センターの獣医師がつとめ、前半の座学では、①初級のふりかえりと中級について、②人獣共通感染症、③鳥の骨格、④症例紹介を、後半の実技では、30種におよぶ野鳥の生体や死亡個体を用いて、識別・保定(正しく持つこと)・給餌方法を学んでいただきました。生体に初めて触れるという方も多く、非常に勉強になったという声を多く聞くことができました。(時期は未定ですが、次回の講座は「上級」を予定しています。)



座学の様子

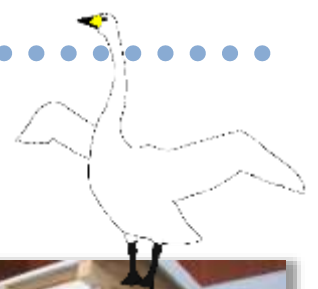


実技の様子

水鳥用の大型リハビリケージが完成しました

当センターのボランティアKさんが中心となり、5月の連休明けからハクチョウ類などを收容する大型ケージの製作が進められて来ましたが、この7月、ついに完成しました。設計から施工まで、モノづくりを得意とするKさんの、ほぼ一人の力によるものです。

「以前にも同様のケージを作った経験があるので、作業はスムーズに進みました。ただ、傷病鳥がここに收容されるのだと考えると、このケージがなるべく使われないうようにと願っています」とは、Kさんの声。ありがとうございました。



大工仕事中のKさん



【自然観察路情報】

2017年7月12日(水) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

コブハクチョウ、オオハクチョウ、キジバト、アオサギ、ダイサギ
 トビ、コゲラ、キバシリ、コサメビタキ、ビンズイ、ウの仲間(以上、姿)
 カッコウ、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、コヨシキリ、クロツグミ、アカハラ、イカル(以上、声)
 ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、センダイムシクイ、キビタキ、アオジ(以上、姿と声)



《植物》

ノコギリソウ、ニガナ、エゾノサワアザミ、エゾノレンリソウ、サワオトギリ
 ナワシロイチゴ、ノイバラ、ホザキシモツケ、オニシモツケ、オニノヤガラ
 コウホネ、エゾノカワラマツバ、イボタノキ(以上、花)、ミヤマザクラ、ズミ
 クロミノウグイスカグラ、マユミ、カンボク、ヤマウルシ、カラコギカエデ(以上、実やタネ)



《昆虫・その他》

ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、フタスジチョウ、ミドリシジミ
 セイヨウオオマルハナバチ、シオヤトンボ、カバキコマチグモ

ショウドウツバメ

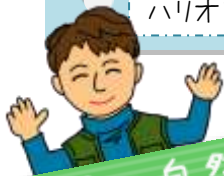


【水鳥カウント調査結果】

2017年7月12日(水) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類、ほか * ()内は個体数、(+)は「以上」の意味

コブハクチョウ(9)、オオハクチョウ(1)、カワアイサ(1)、アオサギ(3)、ダイサギ(2)
 ハリオアマツバメ(37+)、コチドリ(5)、クロハラアジサシ(2)、トビ(4)、ショウドウツバメ(5)



8月の自然予報

- ・湖面に水鳥の姿はほとんどありません。上空には、小さな虫を狙って飛ぶショウドウツバメやハリオアマツバメが見られるかも知れません。また、今年は岸近くに泥地が出現しており、トウネンなどのシギ類が見られることを期待しましょう。
- ・ネイチャーセンター近くの小さな池では、水浴びをする野鳥が見られるでしょう。
- ・林では、シジュウカラなどの親子連れに出合えるでしょう。



泥地を歩くコチドリ



ナガボノシロワレモコウのつぼみにとまるゴマシジミ



草花ウォッチングがオススメ。ピンクのホザキシモツケをはじめ、青紫のサワギキョウや黄色いクサレダマが見頃。中旬からは秋を感じさせるエゾリンドウなどが咲き始めるでしょう。



赤紫色のエゾミンハギ



- ・虫の声(翅をこすり合わせて出す音)が聞かれるでしょう。ハネナガキリギリスは「ちょん、ぎー」、コオロギの仲間、カンタンは「るるる・・」。耳を傾けてみてください。
- ・フタスジチョウやコヒョウモンなどのチョウ類、ウスバキトンボやオオルリボシヤンマなどのトンボ類が多く見られるでしょう。

【カセンソウ】

夏に湖岸の自然観察路で出合える、ヒマワリを小さくしたような黄色い花。それもそのはず。同じキク科の植物です。川岸でも見られるので、漢字で書くと「河川草」かな？と思いがちですが、じつは「歌仙草」。風流な名が付いています。ただし、由来ははっきりしません。



* 当センターが開館してから15周年を迎える今年はそれにちなんでクイズを出題していきます！
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 当センターが開館したのは2002年7月28日。さて、この日の苫小牧地方の最高気温は次のうち、どれだったでしょう。

- (あ) 21.4℃
- (い) 23.4℃
- (う) 25.4℃



オープンしたばかりの頃のセンター



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

アオバスク

体重140g

-診察中-



左翼の先端が拳上している



-診察中-

2017年 7月 7日 晴れ

早朝、苫小牧市内で飛べずにいたところを市民が発見

7月7日 8時30分頃、当センターへ搬入。明らかな外傷は認めなかったが、左翼先端を持ち上げていることから、左翼の打撲が疑われた。安静状態で経過観察した後、給餌を施したものの、吐き戻し行為が見られた。全身も強打していることにより、消化器に異常をきたしていることも考えられた。個体に負担をかけぬよう少量の餌を頻繁に与え続けたが、ほぼ7月9日 全て吐き戻し、回復する兆しがなく2日後に死亡した。

アオバスク（フクロウ目フクロウ科）

夏鳥として、平地から低山の広葉樹林に生息し、大木の樹洞で繁殖します。全長29cm。中型のフクロウ類です。タカのように飛び、主にガヤコガネムシなどの昆虫類を脚と嘴を使い捕食しますが、小鳥やコウモリなどを捕らえることもあります。

イベント情報

夏のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：7月29日(土)・30日(日)・8月5日(土)・6日(日)・11日(金・祝)・12日(土)・13日(日)
19日(土)・20日(日) 各日 10:00～16:00 (受付時間)

対象：どなたでも

申込み：不要。当日 10:00 から随時受付 (受付終了は 16:00)

内容：約 500m の自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された夏の自然に関するクイズに挑戦いただきます。



市民ギャラリー

「平成 29 年度 野鳥絵画展」

日時：8月1日(火)～8月24日(木)

展示：北海道

*8/1 は 13 時から展示



「木工展 (ウッドターニング) 」 (ポールターニング) 」

日時：7月30日(日)～8月27日(日)

展示：金子 進さん



◆ウトナイ湖◆

周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。

鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前 9 時～午後 5 時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

